京城新報

●新聞料 ▲一部金五錢 ●一ヶ月前金 ▲三ヶ月前金 ▲六ヶ月前金 ▲郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 四月一日
發行兼編輯人 印刷人 秋山忠三郎 京城西署西小門内
發行所 京城新報社 電話六六三番

韓國に働きたる人物 其十六

故奧村五百子女史（上）

▲奧村五百子と云へば、愛國婦人會創設より非常に名を賣て、今では日本帝國に於て誰知らぬものはない、殊に日露戰爭當時戰地を跋渉して特質の男性的運動をなし、到る處に怪氣焰を吐き、皮肉の痛罵を試みて喝采を博した、

▲歸來南船北馬遊説の爲に席溫かならず、特調の慷慨悲憤の語を以て婦人界の愛國心を鼓舞した、彼女が貴婦人の斧一本節約して戰士を勵せ抔貴婦人の驕奢を痛切に罵る等普通の女性には出來ないことを言ふた之が却て奇拔として迎へられた、

▲彼女は妙齡の時より男性的であつた、維新當時彼女が島田髷であつた頃、鄉里佐賀藩の志士と交り、勤王論を頻りに唱へ、或時探拔されて十八の島田娘は、使者として長州に赴き高杉晉作に面し、傲然相下らず議論を上下して長藩を懾したこともある

▲之を以て見るも彼女の性質が如何に男性的でありしか推想するに難からぬのである

▲或者は彼女を以て日本のナイチンゲール女史だと云ふものもあるが、それは間違である、ナイチンゲールには女性的の優にやさしき愛の念が滿ちて居つた、彼女には此優婉なる愛の念を缺て居た、

▲彼女には秋霜烈日の嚴たる處と奇行百出其間に滑稽を含だ處はあつたが、總て殊更に世に逆ふと云ふ態度が見へて人を引付る力になかつた、ナイチンゲールが溢るゝ斗りの愛に、多くの兵士が愛の化神として其背を拜したる如き面影は彼女に於て見出すことが出來ぬ、人をして怖れしむることはあるも、慕はれる質は少しもなかつたのである、

▲要するに彼女は女性として働く可き資格に缺けて居た、男性の爲すべきことをなす方が適して居つた、彼女も亦之を好で之を爲したのである、婦人事業の働き者としては餘りに殺伐過ぎた、彼女の容貌姿勢も亦た不適當である、彼女の熱烈慷慨は多とする所なるが、其擧措動作は何人と雖も一見嫌忌の情を起したのである、

▲惜て彼女が愛國婦人會に働きたることは何人も知る處なるが、其韓國に働きたることは餘り多く世に知られて居らぬ、殊に光州に於て女學校を起して、鞠躬盡碎したることは知らぬ者が多い、いで其概略を物語らう、

▲彼女が韓國全羅道光州に於て、韓國女子の教育をなさむと思ひ起つや、先づ外務省に飛込で其保護を依頼した、外務省にても其暴動が狂氣染みたる處より、狂氣婆と見做して宜加減にして追返さんとしたるに、彼女は憤然として其特性を發揮した、尻を捲てアグラを掻き、大聲怒號して大臣大隈を出せと威丈高になつた、之れには省中の俗吏は吃驚したのである、

●憲兵隊着報

△咸鏡憲兵分隊古城分遣所山下伍長以下八名は四月一二日午前〇時甲山縣甲山下南面魚坪里に宿營中なる賊徒約二十五名を攻擊したるも大部分は之を察知したるものゝ如く直に逃走し殘留者四五名の賊は我と對抗せしも直に北方山中に退却し追擊約一里にして遂に踪跡を失す

△江華島憲兵分遣所長は上等兵三名を率ひて江華島峯島方面巡視中同島に於て二十二日約十四五名の賊と衝突交戰暫時にして彼は乘船北方に逃走せり其退路に鮮血淋漓たるより察すれば賊は少くも二三の負傷者あり

△二十二日午前十時約百五十名の賊徒揚州郡伊淡面上鳳岩里附近を通過せりとの情報に接し楊山憲兵分遣所上等兵五名同地に急行したるも賊は約一時間前抱川郡山內面方向に出發せりとのことに付一行は追跡二時間にして同地東方約一里の山頂に於て賊五十の退却するを認め直に追擊を加へたるも山內面㗖里方向に踪跡を失せり尙は一行は追蹤約一千米突の山頂に於て賊約七十名の射擊する處となりたるも交戰約二十分にして同方面に擊退し北方山中に於て遂に踪跡を失す賊の死傷少なからず

△陽城分遣所足立軍曹外上等兵七名は二十三日陽城發陽知郡下北面點心洞寧附近に於て賊徒晝食中なるを探知したるも賊の步哨は我の攻擊を察知し銅鑼を鳴らして闘閧を警戒したるを以て約七十の賊徒は悉く山上に登り一時我に向て發射せしが忽ち四散し追蹤するも及ばず火藥二袋鉛彈三十發鹵獲す

△四月二十七日平壤憲兵分遣隊長の電報報告に依れば江界分遣所上等兵赴任途中二十五日江界渭原間「ギョライボウ」附近の山中に於て賊五と出會之を捕ふ銃五鉛三鹵獲す

△新院分遣所鈴木中尉の報告に依れば下士以下五名の憲兵は二十三日下方面尹村に於て賊徒五名の間道を通過せるを發見し直に射擊を加へたるも遠距離にして遂に山中に逸す

△四月二十三日午前十一時三十分江原道鐵原郡加乙末面治洞西方山地に於て約六十名の賊に衝突し其二を殪し火繩銃一背負袋二を鹵獲したる詳報を聞くに廿二日賊徒夜襲の目的を以て漣川郡官仁面後洞に向ひ前進せしに同所附近にありし約六十名の賊徒は我前進を知り間道より鐵原に向ひて急進したるを偵知し鐵原郡松內面吉蛾里同花硯二番浦、長興山新村等を經て徹宵追跡し翌廿五日午前十一時三十分鐵原郡加乙東面治洞西方山地に於て及せり當時賊徒は山中に隱遁休憩しありしも討伐隊の約五百米突に近接するや毫も應戰することなく潰亂四走せり依りて直に追擊し午後二時頃に至り全く彼等の隻影をも見る能はざるに至れり首魁は李昌雲にして總首魁許爲の部將にして部下五六十名を有し主として鐵原附近及漣川附近を徘徊せり

●賊長壽山に籠る

多數の賊徒長壽山に籠り夜間下山して長壽山南門各村落に宿泊せるの情報あり目下黃海道を掃村中なる鈴木中尉は下士以下十七名を率ひ廿二日午前三時新院を出發し長壽山南門外の村落に達し村民に就き賊徒の狀況を尋ねたるに多數の賊徒は近頃長壽山中に在りて時々下山し洞長等に命令書を發し金穀を徵收するを以て直に南門より進入したるに附近尼寺に怪むべき白衣の韓人三名の徘徊するを以て上等兵四名をして急射接近せしめしに彼等三名の內一名は銃器を携へ他の二名は品物を脊負ひ急峻なる山脈を攀登して逃走し之に追及するの見込なきを以て射擊を加へたるに品物を放棄し銃器を携へたる一名と共に山岳を越へて逃走したるに依り全員をして追跡せしめ山腹に到りたる時白雲寺附近なる山頂突角部に賊徒約四十名頻りに射擊して討伐隊の攀登を防止せんとしたるに依り二隊となし白雲寺東南方より賊を攻擊したるに賊は最後に突角部より携帶砲の如き音響あるものを發射して之を合圖に一同長壽山北麓を下り其大部分は鳳山郡方面に逃走之を追蹤すること約二里附近斷崖絕壁の爲め行動自由ならず遂に踪跡を失す尙長壽山頂には多少の賊徒潛伏せるを聞知し之を撲滅する爲め隊を二分し再び長壽山北麓より登山して之を搜索したるに長壽山南門東北の山中に於て首魁康孝淳の部下なる賊一名を捕ふ其供述する處に依れば黃進士、沈老直、康孝淳の三首魁は部下四十名を率ひ四月十八日長壽山南北麓の村落に來集して二十日山頂に登り閔孝植、權得奎の二首魁と部下四五十名を率ひ廿二日長壽山に來集する筈にて同日二首魁は載寧郡上方面壽木洞迄來着したる處討伐隊の長壽山攻擊を聞き閔孝植及權得奎は信川郡地方へ逃走したりと云ふ今彼等の長壽山集合は今回新院に憲兵分遣所を新設したるを以て連繫行動上甚不便なれば之を襲擊するにありとて各首魁等は紙を以て摸砲を造り（七個）又は長壽山を根據として附近村落より金穀を收授するの計畫なりしとは權得奎の部下たりし者の語る處なり

●歸順後の賊徒

江原道に於ける暴徒歸順者は鐵原憲兵分遣所に於て監視保護を與へ來りしもの今日迄六名ありしが其成蹟良好ならず固より彼等をして再び不良の徒たらしめざる監視の點に至りては至難たるを免れず賊徒の彼等に對する強迫暴行に關しては充分なる保護を加ふる能はず又彼等も往々賊徒再拉取の憂あり夜間數名潛行し來りて暴行強迫を加へ勸誘を迫るに依り時々村落附近の夜間巡察を行ひ又は附近守備隊に通報し或は分遣所近在に移轉すべき事等を勸めつゝあるも家族職業其他の關係等よりして總に其運に至らず近來鐵原郡畝長面上馬山里住崔洪實は賊徒再同行を迫られ頑として應ぜざりしにより遂に慘殺せられたり又其他二三の歸順者は皆賊徒の再拉取を恐れて遁避し目下僅かに二名家居しあるのみとなれり蓋し現下の狀況上夜數里の地點に潛行し來る賊徒に對し完全なる保護の實を擧ぐる能はざるは此當然の事に屬す要するに鐵原附近の歸順者は免罪文憑に依りて軍隊よりする暴行加害は免れ得るも一層賊徒の目標となりて一般住民に比し一層生命財産の危險を感じ居るは爭ふべからざる事實なりと

●歸順賊魁の歸順勸誘

江原道の賊魁吳正默は三月下旬原州警察署に歸順を申請したるを以て誠心悔悟を表するの證として暴徒の歸順を勸誘すべき事を命じたるに彼は老軀をも顧みず各所に奔走し本月二十日迄に三十餘名の歸順者を出したりと云ふ

きのふの一日

讀者文壇　投書歡迎

扇三子手記

ながむれば柳櫻をこきまぜて都ぞ春のにしきなりけると、古人も詠じけん、この頃の春景色、いかに韓國の都とはいへ、木覓山頭の松のみどりはいはずもがら、北漢山の裾野のあたり、野つら、山つら、見るとして綠ならざるはなく、山ふところにきさみだれたる百花の色香、めでたきさまは吾人をして轉遊情を禁せざらしむるものあり、況や身は久しく古山の風月にそむき悲壯の域、望鄉の念、層一層たかぶりて、往時を追想せしむるに於てをや、遮莫一日の清遊を試みて花の晨、月の夕、古鄉に在りし昔をくりかへさばやと一行すべて五人、男性にありては扇南散史、豐園逸人および予の三人にして、女性には心へだてぬ春子、夏子の二孃なりき、「チゲクン」に折詰と瓢とをかつがせつゝ、午後二點鐘、泥峴なる旅寓を出で、道を大和町にとり新町通りより硝子工場のホヤ吹を見て、義和宮殿下の御料地てふ標木ある小丘にのぼれば、扇南散史は先登第一の殊勳者として瓢の仁貴を賞翫するも一興なりき、それより訓練院を經て、興仁門前に至り城壁に添て指定の陣地につきぬ、「いざけふは春の山へに酒宴してくれなば花のかげにやどらん」と、口すさびつゝ「チゲクン」に持せたる種々、とりたろさせなどして、春の惠みにいろどれる野べの一角を占領したりき、これより先毛布を忘れたることを、おもひ出したるも途中より引返すほどの勇氣もなく、徐に歩みをすゝめしも、さて、陣地につきて見れば敷布なきには、閉口せざるを得んのです、そこで羽織をぬぎて敷んとする豐園史、「ハンケチ」をのべんとする春子孃、予も又まけぬ氣にて、羽織のみとなりて着物を脱ぎ之を敷んとせしも實は別にとりかへのなき一枚ものなれば稍躊躇の色も見へたりけん夏子孃は、彼の蘇子の婦ならぬ、斗酒を貯へて夫君不時の御注文に應ぜんとの意にはあらざるべきも、妾萬一のことどもがとおもひ侍りて、今日はわざと、古新聞幾枚を帶上げの代りにつゝみありとて、綠てまやかなる若草の上にひきのべたるも、時にとりての絕妙なりき、かくて、折詰はひらかれぬ、盃はめぐりぬ、春子孃、アゝ忘れたり肴を盛るべき器なしといへば、豐園君は何に「カンギチャナ」其まゝやるべし〳〵さ、女性二人は、それはあんまりですよ、とためらいぬ、予是に於てか畢生の智慧袋を絞りて、小刀をとり出し途中にてもとめ來れる夏橙をよこさまに、皮のみきりてこれをむきぬれば恰好の橙皮の皿とはなりぬ、いざ、これに盛るべしとさし出せば、これ又至極の妙なりとて、さゞめ興じつゝ、數盃々々……四方のけしきのみ、春にはあらずして一行すべて春のものとこそなりぬれ、扇南史の薩摩琵琶、豐園君の筑紫琵琶、人はしらず、お手前天狗の妙調は、女性の美香と相和して天然一幅の活畵ゑがき出したるさま、春のいろのいたりいたらぬ里なかりけりとこそおもひ侍べれ、詩吟あり、劍舞あり、花はわらひ、鳳はあたゝかにして歡、極りなし、

「いつまでか野べにこゝろのあくがれむ花しちらずは千世もへぬへし」さ、うなり出したる古人さへありけるものを、盃盤狼藉、太陽は已に西山に傾きぬ、いざまからむとて、盃をおさめ、つきぬ名殘を花に惜しみ野べにのこして、もと來し道をたどりつゝ歸途に上りぬ、時は恰も午後五時四十五分なりき、

小説　新不如歸（六）

篠原嶺葉著

漁人体の男は至つて無頓着な樣子で。

「此圖ですか、此圖は可笑な事から手に入つたのでございます。二三日前の事であましたが、旦那のやうに立派な髭のある軍人が煙草の火を貰ひたいと私の家に來ました、暫くの間腰をかけて休むで行きましたが、後で見ると何んだか新聞紙に包むだものを遺れてありましたから直樣後を追掛けて返してやらうと思ひましたが、右に行つたか左に行つたか影も形も見ねませんゆゑ入用の物なら取りに來るだらう、と今日まで待つて居りますが、それッきり尋ねにも來ねば取りにも來ませんぢや、そこで警察へ屆けて置かう、と中を開けて見ますると此の圖が入れてありました、這麼物なら態々屆ける程の事もあるまいと、警察へ屆ける事は廢しにしましたが、何が書てあるんだか事の能く解る方に尋ねて見やうと、思ふ矢先へ旦那が此の二三日毎日此處へ出になるを見受けましたから、釣に來るを幸ひに何んに爲るもんだか聞かせて貰はうと、斯して持つて來たやうな理でございます。」

クロパトキンは、軍人が遺忘れたと聞いて事の顚末を詳しく答へた。

飛立つばかりの嬉しさを色にも見せず。目に一丁字も無いと云ふを奇貨として、

「はゝあ、然ういふ事でお前さんの手に入つたのか、なにもうこれは取りに來る事ありません、心配する事ない……これは日本の地理を詳しく書たもので、私のやうな日本の地理に暗いものには非常の便利であるが、地理を能く知つたものには何の役にも立つもんぢやありません。」

と、與實らしく說き聞かせた。

漁人体の男は、全く其を信じた如く、

「はあ、那樣馬鹿氣た物でありましたか、私は何か大切な事でも書てあるんかと思ひました、それではもう屆ける事は止めに爲ませう。」

「それ宜ろしうありませう。」

と、倘も一心に地理を永見て居つた、

「貴方、この地圖私に賣つて下れませんか、私はまだ日本へ來たばかりで地理が分らんから、折角地圖を求めやうと思つて居た所だ。」

漁人体の男は、些と首をひねッて考へて居つたが、大に決斷した如き容子で、

「旦那が欲しいと有仰るなら賣つて上げない事はないけれど……。」

と、何か言にくい樣子に言淀むだ。

クロパトキンは其と察したので、

「直段能く買へといふのだらう……直段は何程でもお前さんが欲しいと云ふほどに買つてやらう、何程に賣るんだ。」

「然うですな、事と品に依れば無代で上げても差閊にはありませんが、欲しい程遣ると有仰るなら一萬留頂きたいものです。」

と、今迄での漁人とは別人の如く打つて變つた物の言態である。

「ヱゝッ此の地圖を一萬留で」

と、クロパトキンも思はず眉を昂げて其顏を瞶めた。それは其物の言態が今までと異つたばかりでなく、僅か一枚の地圖、それも他人の遺忘れたと云ふ地圖を、無法にも一萬留で賣らうと云ふからであつた。

「直段が高いと有仰るんですか、しかし旦那それだけの直價は大丈夫ありますよ、這麼地圖は二度と手に入るもんぢやありませんから。」

京城新報

雨端の時代

暴徒鎮壓問題は最早統監政治の肩上に懸れる責任問題となれり、伊藤公が遊々ながら老軀を提げて赴任せられたる其心事も亦た氣の毒なりと謂ふべし、

韓人は伊藤公が其國土の帝室、政府及び國民を尊重せる政策を把持せるを了解して深く公の歸任を歡迎し、今や群雄漢城に割據し、策士大官の門に雲集して、政界の變遷を豫期しつゝあり、知らず此時代は如何に開展せらるゝ乎、我在韓同胞は滿目の注意を拂ひつゝあり、

蓋し伊藤公の時代開展に就て推測を下すもの以爲らく公は鎮壓の根本を定めんが爲めに重ねて有力なる代表的勢力團を組織して鎮撫の責を該團に負はしむべし、曰く公は依然李完用內閣を鼓吹し、或政社を利用し以て討伐の步調をより嚴密に、より急激に行ふの外に妙計無かるべし、或は曰く、公は鎮壓の責を連帶となし、日韓共同の鎮撫策を取るべく從つて內閣の改造並に勢力團を或程度に利用すべしと、何れも道路の推測にして吾人は何れの方針に出づるにせよ何れの政策なるかをも推測し能はざるなり然れども暴徒は今や確かに統監政治を擾亂せしめたる最大勢力者となり、今に於て之が解決を爲すは二者其一なるのみ、責を韓國に歸して之を鎮撫すべき乎、帝國其責を負うて之を討壓する乎、大凡帝國が三千年來其國策となし、此半島の爲めに惱ましたる根本的政策の歷史及び其結果を想見すれば、帝國の爲すべき政策は已に決定しあり、已に解決しあり、只だ伊藤公の如き半面に於て善く人道、文明を重んじ、半面に帝國政策を行ひ、其調和を謀らんとする政事家の政策としては未だ其根本的政策の解決を實視するに至りては恐らく困難なるべきを豫言す、

公の理想とせる對韓政策を推想すれば、其根本的治療を爲さんと欲すれば手段之に伴ふの急激なるあり、其手段を基礎として發展せんと欲すれば手段の間に手段の矛盾あり、今や公の心中は兩端に懸れり、今の統監政治は兩端の時代に立てり、吾人は只だ大刮目して其成功を祈るのみ。

東京電報

▲石炭仲仕のストライキ　門司石炭仲仕賃錢引上げのため今朝より同盟して休業せり目下仲裁中なるも若し交涉纏らざれば一萬人以上罷業すべし（二十八日發）

▲國庫第二次償還　國庫債券三千萬圓第二次償還の件本日告示さる

▲御婚儀祝宴　竹田宮常宮兩殿下御結婚の祝宴は三十日夜豐明殿に御催しあり　兩陛下出御在らせられ東宮殿下同妃殿下各皇族及び各國大使公使大勳位元帥親任官以下三百餘名に陪宴仰せ付けらる

▲御婚儀經費　竹田宮常宮兩殿下御結婚に要せらるゝ經費は總額金三百五十萬圓なり（以上欄外再錄）

各地電報

▲日本人暴徒に殺さる　昨夜九時暴徒約十五名羅州郡竹浦に來襲し日本人一名殺害せらる當地警官憲兵と共に討伐のため急行せり（廿九日羅州發）

▲暴徒討伐　當地警察署討伐隊は昨廿七日本郡立岩面惠洞に於て首魁吳泰三の率ふる暴徒數十名と衝突し激戰の後之を茄佐坊方面に走潰せしめたり此の戰鬪に於て賊は死者八名傷者十數名を出せり尙同一行は同郡定塔洞に於て護軍將の職に在る暴徒李洪外二名を歸順せしめたり（廿八日海州發）

▲暴徒一進會を襲ふ　暴徒五十名當地警察管內なる中江鎮を距る三里の地點に來襲し同地一進會員を劫かし財物を掠奪し尙中江鎮を襲ふの虞あるを以て當地守備兵は警察官と共に同地に向け急行せり（廿八日江界發）

▲平山の衝突　二十六日午前十一時三十分龍浦憲兵分遣所上等兵五名東約二里北斗山の中腹にて賊六十と衝突し其十一を殪し火繩銃七彈藥若干其他雜品多數を鹵獲す

▲賊魁を殪し婦女を奪還す　廿七日午前六時連山邑東二里半にて賊魁を殪し拉去されたる婦女二（韓人）小兒一を無事取返したり賊死三負傷約六銃二挺一彈藥若干を鹵獲す（以上廿八日天安發）

▲賊馬糧を燒く　二十八日午前二時咸鏡南道咸興砲兵隊が購買せんとし多數の堆積せる藁へ放火したる賊徒あり其內の一名は逮捕し取調中又右の放火の爲め砲兵宿舍一棟を燒く（廿八日咸興發）

雜報

●伊集院中將へ下賜品　韓皇より第二艦隊司令長官伊集院中將へ左の下賜品あり宮內大臣李允用氏より去る二十七日傳達方を伊藤統監に托せられたるに依り太皇帝の下賜品と共に艦隊根據地へ送致方取計はれたる由なり

李花紋緞　二疋　銀巾環　壹件

●大臣會議　昨日午後一時統監官邸に於て各大臣參集し會議を開かれたり

●道書記官會議（第二日第三日）　一昨廿八日午後○時半より開會地方局主管事務に關する諮問會議にして地方行政官が舊來の弊政を改善し韓民の福利增進するの方法に就き各自の意見を述べ孝子烈婦の表彰公共事業に熱心盡力したる者に對し行賞、罹災窮民救恤、鰥寡孤獨者を救助、備荒貯蓄其の他地方行政に關する事項を諮問協議し午後五時散會せり

昨日は午前十時より開會警務に關し各地自衛團の實況、宣慰委員の行動、渡船場許可の實況、其の他警察上の事項を諮問し且つ是等に對する各自の意見を述べ午後二時散會せり而して本日は參與官會議の當日なるを以て木內次官は會議半ばに退席し松井局長代つて議長席に就けり因みに明日は土木局主管事務に關する諮問會にして午前十時より開會す

●新聞紙法改正

韓廷にては兼て發布したる新聞紙法中第三十三條の次に左の三條を追加し第三十七條以下順次遞下する旨昨日の官報にて法律として發布したり

第三十四條　外國にて發行する國文或は國漢文又は漢文の新聞紙又は外國人が內國にて發行する國文或は國漢文又は漢文の新聞紙にして治安を妨害し又は風俗を壞亂するものと認むる時は內部大臣は該新聞紙を內國にて發賣頒布するを禁止し該新聞紙を押收するを得

第三十五條　第三十四條の禁止に違反して新聞紙を發賣頒布したる內國人は三百圓以內の罰金に處す

第三十六條　內國人が第三十四條に依りて發賣頒布を禁止せられたる事を知りて該新聞紙を輸送し又は配布したる者は五十圓以內の罰金に處す

本法は頒布の日より施行す

●治道費の裁可　本年度歲入出總豫算中に治道費百萬圓追加の件裁可せられたり治道工事は二ヶ年繼續にて本年度に支出せらるべきものは七十萬圓、來年度は三十萬圓なりと云ふ

●日韓同志會の提議　日韓人が時局に鑑み組織したる日韓同志會に於ては韓國を啓發する方策に基き近者左の六大條項を提議したりと云ふ

第一條選部、第二條移民拓殖、第三條殖林經營、第四條鐵道增設、第五條教育普及、第六條法權回復

此の六大個條の事項を實行する現今の急務なりとて之を中外に闡明したりと

●小田柿氏留別談（承前）

（韓國經濟協會送別會に於て）

又た政府も此のトラストに對しては全力を盡して保護すべきものとす其礎りトラストは當韓國に於て我國民の何等か確實の仕事に着手しつゝある者又は着手せんとする者に對しては其資產を供給し又其仕事を補助監督すべき義務を負はしむる事結局トラストに於て其の勢力を恃み從つて總ての利益を壟斷せしめず大いに共々に成功をせしむるにあり何故かゝるトラスト必要なりやと云ふに前に申した通り我が官民中何か仕事をなさんとする者あれば他人之を妬み其の打破を斗り相互に中傷し其仕事不成立にをはるのみならずたとへば官に於ても其仕事の有益なるを知り之れを助力成立せしめんとする時は忽ち他より之れを排擊し其の成立を妨ぐるにあり又かゝる有力なるトラスト成立する時はたとへば他外國人より此國に於て何等かの經營をなさんとする時も先此トラストに協議し其勢力をからねば何事も成立する事能はざる樣になるは自然の勢力なるべし尙此のトラストに就ては話し申し度事澤山なれ共今回成立したる東洋拓殖會社は始めて私の此の希望に合したる如く思はれ我々も始めて我が宿望の達したる心持がして實に愉快に存じます尤も同會社今后の實地の經營を見たる上に非らざれば或は私の喜びがむだになるもはかりませんが隨て私は同會社今後の活動を殊に注目し今日の私の喜びが無駄にならぬ事を偏に祈て居ります

●●●●軍艦買込の事●●●●　當時世間から種々の攻擊を受た軍艦買込の如きも日露戰爭前此國に於て各列强が利權の爭奪最中私が冒險的に試た一つの狂言に過ずして第一に我が本社不同意なりしのみならず例の如く四方何れも敵にして只管之を打破せんと種々の防害を內外より受けたるもこれがほんとの乘りかゝつた船私も必死の活動時には隨分激しき談判又は居据り談判甚しきは仁川冲にある一島を占領せんとする迄の亂暴を演じ兎角無事に其の仕末を付けました勿論此の仕事は騷ぎのみ非常に大きくして何も利益なかりしは三井に取りては實に氣の毒千萬の次第なりしも要するに當時各列强利權の爭奪最も甚敷此軍艦買込に付ても二三の列强中必死の運動に着手したる者もあり殊に當時陸海軍事に關し他國より此國に關係する手臺を作らしむる事は我當局者に於ても最もきらわれたるに相違なく又私もかゝる中に立ちながら徒に他列强をして此利權を橫奪せしむるは如何にも殘念なりとの功名心に過ぎざりしなり

●●●●韓廷との商賣●●●●　韓廷との商賣ほど不思議の者はなく如何なる物でも賣込まんとすれば直ぐに賣れるのである、茲に不思議な事には物を賣込むに就て或方面へ手數料を納める必要があるのである、自分は手數料まで納めて物を賣て其代金が採れないことが譯つて居つたから韓廷との商賣はあまり勉めなかつたのである併し商賣のある處へ餘り冷淡に構へるのも如何と思ひ後れ馳せながら物を賣込む前にまづ買ふ事を案出したのである、ソコデ人蔘などを韓廷から買ふ樣にしたのである、まづ先方から二百萬圓の價格の物を買つて置いて彌仕拂の義務が生じて來たところで此方から百五十萬圓位の物を賣込む、夫れで韓廷と安全な取引が出來る樣になつたのである

●●●●日露戰役後の商賣●●●●　日露戰爭後の朝鮮は其狀態大に異りたるを以て所謂以前の朝鮮商賣なるものゝ跡を絕ちて萬事眞面目となりたるなり、以前は韓廷若しくは韓政府相手なりしものが總て統監府相手若しくは邦人官吏の入込たる韓政府相手となりたるなり韓國の極貧にし殆んど商賣の相手にならざることは今更言ふ迄もなく從て諸事の經營は甚だ困難なり思ふに今日の有樣は商賣にとりては最も困難のドンツコに在るものなり此ドンツコより尙下へ落つることは決して無かるべしと信ず政治其他の事にして整頓したる曉には必ず發達の方に向ふことを信じて可なりと思ふ

●●●●滿韓の買被り●●●●　一體內地の人々が滿韓と云へば何か大金儲けでもある如く考へるが間違なり其狀恰も彼のクロンダイクの金鑛發見の當時其熱に浮され彼地へ出掛た如く滿韓へ出掛たのが間違である、併しクロンダイクに就ては實際クロンダイクに行た連中でなく金を拾ふ目的を以て初めシャトルに集り種々の事に依つて其地へ金を落したる其落した金を拾つたシャトルの人が大に利益を得たのである今、シャトルに行つて見ると學校道路が皆其時冒險者から落された金に仍て立派に出來て居るのである、朝鮮に於ても然りで之は當地の小商人旅館や料理屋などは朝鮮熱によつて集る內地人から金を採つて居るのである、否々後も採るのが上分別である

●●●●日本本位、韓國本位●●●●　今我帝國は此あばら家なる朝鮮を引受けて之を良くする樣に骨を折つて居るのである、此破屋を良くするに就て日本本位韓本位もあつたものではない、ドチラにしても仕事をして實績を擧げる事が大切である、而し愈此破屋を作直すに就ては今迄の家主は無能力なるが故に一切をコッチが預つた事故何をするに就ても元の家主や現在の住人などの言葉を聞くの必要はないのである其上近所合壁の批評などは耳にする必要はないのである、引受けた以上は眞實に强硬に自信を以て破屋の改造をなすべしである、日本本位韓本位などの問題はドウデモ良しとして實際此破屋をして立派なるものにならしめ誰れにも安全に住める樣にして貰いたいのである、其後の事は自分が云はずとも大抵は判つて居るのである、願はくば我經濟協會は常に公平の態度を持して韓經營の諸問題を研究し時々公平なる意見を發表し官民指導の任務を盡されんことを切望の至りに堪へざるなり

●京城衛戍病院（近況）

記者は昨日京城衛戍病院を訪ひたるが同院近況其他に就き牟田一等軍醫の語りたる處を摘記すれば

△現在患者●●●　總數五十六名にして將校三名他は下士以下なるが尙此の他に釜山、全州金化、忠州、春州、溫陽、鎮海灣、光州等の分院に在るもの三十三名なりと

△登院の種類●●●　本院現在入院患者中にて暴徒討伐の際負傷したる者六名にして病患は肋膜炎の六名最も多數を占め居り丹毒一名あり

△傳染病と花柳病●●●　傳染病は目下の處未だ一名の患者もなし花柳病に至りても平素各兵の素行に注意するを以て極めて少なく比例は入院患者の十分の一に過ぎず

△病兵の狀態●●●　現下の入院兵中重症は二名あり其の他は何れも輕症にて中には退院期に近きもののあるが斯かる病兵には院內に限り散步を許し居れるが將校以外は風紀其の他の關係上院外に出るを禁じあり

△患者の娛樂●●●　院內には娛樂室を設け有志の寄附に係る新聞雜誌、碁盤、將棋、手風琴等を供へあり近く龍山病院新築落成後は庭球を加ふる筈なり

△一般の寄贈品●●●　昨年夏暴動の際は一時一般よりの寄贈品極めて多かりしも其の以後漸次減少したり衛戍病院にては別に多額の經費の支出を許さゞるを以て患者の慰藉としては有志の寄贈を仰ぐ外なし

△患者の最も喜ぶ寄贈品●●●　煙草、菓子、菓等は依然として一般患者の喜ぶものなるが尙武士道に關する面白き書籍の如きは極めて有益なる寄贈品なるべし

△傷病の比例●●●　昨年四月京城衛戍病院と改稱されてより以來入院患者中最も多數を占むるは戰傷者にして今日に至る迄百四十名を數ふ次ぎは各地方に暴徒討伐の爲め向ひたる關係上發生したる窒扶斯患者これなり亦百二十名の多數に上りたれども幸に本年未だ一名も該病に罹りたる者なし

△軍醫班學會●●●　日露戰爭以後一層軍醫上に關する教育を重ずるに至りたるを以て每月二回軍醫部にて軍醫學會を催し風土氣候の關係より及ぼす實地の經驗に基き諸種の事を研究し居れるが尙近々教育班を組織して一般軍醫學に關する教育を普及せしむる筈也と云ふ

●憲兵二名戰死　榮山浦憲兵分隊寶城分遣所の電報々告によれば二十六日午前七時樂安分遣所と交通の爲め派遣せし坪井永戶永井の三上等兵は同十時寶城の東方約二里半「ハセイ」に達せんとする際附近の山上に賊約百五十を發見之れに射擊を加へ交戰約二時間にして殆んど携帶彈を射盡し苦戰の後三名共負傷遂に坪井永戶の二名は其場に戰死永井は負傷後午后二時辛うじて歸所せり依て藤島憲兵伍長は直ちに憲兵上等兵二巡查二を率ひ現場に急行せしに賊は尙ほ山上に在りて頑强に抵抗し約三時間交戰の後夜に入りしより行動意の如くならず止むなく坪井永戶の兩上等兵の死屍を收容し一と先づ引揚げたり猶ほ引續き討伐に從事しつゝあり交通兵の携帶兵器は皆敵手に入れり

●群山稅關の竣工　群山稅關の新築廳舍は本月中に完成の見込みなりしも諸種の故障ありたる爲工事非常に遲延し來月十四五日頃ならでは竣工せざるを以て同開廳式は廿日に延期されたりと云ふ

●光濟號の鴨綠江行　沿岸監視船光濟號は燈臺建設材料を積載して明日仁川より鴨綠江方面に向ふ筈なるが仁川稅關の開港紀念大園遊會（來月十日）までには必ず歸港する筈なりと云ふ

●●●●●大同會支局發會式●●●●●　大同會にては漸次會員增加し盛況に向ひたるを以て今回西署大貞洞に支局を設置することとなり昨日午後二時より其の發會式を擧げたり

●地雷と空砲の發射演習　工兵第十三大隊第一中隊は昨二十九日龍山作業場に於て地雷演習を爲したるが又來る五月一日釜山街道上黑岩附近に於て空砲發火演習を實施する由

●副統監歸京　曾禰副統監は二十八日無事開城に着せられ同夜一泊昨日午後三時五十五分開城發午後六時四十九分南大門着歸京されたり

●永登浦矯風會側の意向　永登浦總代役場問題に付同地居留民中の大部分連署の上之れが解散を三浦理事官に請願したることは既報の通り右に就て同地矯風會員側の意向を聞くに愈々役場解散となる曉は此まで納付せざりし課金を以て同地小學校の增築費其他公共事業の使途に充てんとの意向なりと

●●●●●井上書記官歸任●●●●●　宮內事務視察として歸國中なりし宮內府書記官井上雅二氏は夜行列車にて昨朝歸任されたり

●●●●●岡部領事の來京●●●●●　淸國安東縣駐劄領事岡部三郎氏は昨日午前六時五十分南大門着列車にて來京したるが一泊の上本日任地に赴く筈なり

●ターナー僧正送別會　ターナー僧正一時歸國の爲め英國總領事主催となり送別の爲め二十八日午后四時園遊會を開かれたり會するもの鶴原總務長官石塚參與官鍋島外務總長小松書記官下谷秘書官頭本及各國領事其他貴婦人令孃等なり

●●●●●鈴木氏の小宴●●●●●　目下滯京中なる愛國生命保險會社の鈴木萬次郎氏は一昨夜重なる知己を清華亭に招待し小宴を張りたり

●近事片々

▲伊公●●　膝を屈して太皇帝に暴徒鎮定を歎願し太皇之を諒して其請願を容るとは眞乎

▲太皇●●　帝をして再政務に干與せしめずとは伊公の決心と聞しに此風說あり惜も訝し

▲伊公●●　が三大條件の一とは斯る事か[illegible]

▲眞●●　なりとせば統監政治は根底よりの失敗也

▲太皇●●　の出現を請はざれば暴徒の鎮壓は出來ざるか應莫保護統治の威嚴何くにある

▲斯る●●　狀態にては太皇誘引杯は思も寄らぬ太皇の慰撫に依て鎮定する暴徒は亦起るさ加減も茲に至て極端也斷乎とし

▲手緩●●　て帝國の威信を發揮する事は到底六個敷い

▲片々●●　素より多きを期待せざるも斯く迄姑息の手段は取るまじと思しは泡沫夢幻也

▲太皇●●　の暴徒鎮撫と內閣更迭位が關の山か是では長白山頭埋骨の決心も怪しい者だ

▲太皇●●　暴徒鎮定の受合も怪しい之が事實とならば唾眉御用心が肝要ならめ如是我聞

▲曾根●●　副統監三和港到着の際郡守等人民に歡迎を强るも更に應せずと何たる失態ぞ

▲韓民●●　悅服と每度御用紙辨ずるも斯くては統監政治に余り悅服せざる證據ならずや

▲一進●●　會員のみ出迎へりと百聞一見に若ず曾根子韓民悅服せざるを知る一人となる

▲韓政●●　府新聞條例を改訂す果して條文を勵行して取締ることを得べきや刮目ゝ要す

▲外國●●　人の國文を以て發刊する新聞を條文通り勵行し得る乎

▲宋秉●●　畯馬關出發の報知ありと宋君歸來の訛傳百出噂では既に度々歸城せり面黑し

▲宋公●●　も未だ斯く噂に上るだけ多少の勢力あり歸來策は伊公に對し何事を策する乎

▲伊太●●　利論をベッセル申報掲げて慷慨激憤すされど韓國ガリバルヂーマッチニー無

▲韓國●●　にガ氏マ氏の如き眞の慨世憂國の士あらば今の狀態に陷入らじ國情雲泥の差

▲朝鮮●●　の生絲米國恐慌の爲に賣行なく相場下落爲に影響織物に及び大暴落を來せり

▲其他●●　輸入超過等經濟界は亂麻の如し藏相不得要領居士も近來頻に苦悶煩惱せると

▲實業●●　家擧て現閣の賊政策に反對して如何に樂天家なる松田正久も逃出さんと云ふ

▲林董●●　外相亦攻擊の火の手盛にして自ら所決するの止むなきに至ると疾く所決せよ

▲津田●●　仙氏頓死最も古き農學者なり篤學にして品行方正今世得難き老翁死悼むべし

▲翁の●●　媒助法は有名也其津田繩なるもの世の普く知る所之れ墺國に於て學得たる也

●六十金を奪ふて二名を取返す 廿六日夜十二時頃賊八名金川の東北方一里半なる臨城驛安男金鎰俊方に押入り詐欺の如きものを示し金二百圓を强請せしも貯へなき爲め應じ得ざりしを以て同人が妻及村長を捕へ同所より一里北方村迄連れ行きたるを以て金及李の家族は各金三十圓づゝ計六十圓を與へ賊徒の跡を追及し金を與へ漸く二名を取返したりと此賊徒は長端郡地方を徘徊する李成五の部下にして約三十名を有すと今右の訓令なるものを聞くに軍用金を醵すること銃器を所持するものは差出すこと射擊の心得あるものは賊徒に加入すること等の意味を記載しありたりと云ふ

●永濱税關總長出張 永濱税關總長は税關事務視察の爲め復後約五日の豫定を以て本日發釜山税關及馬山支署へ出張

●グチの大漁 昨今群山近海に於ける魚漁は近年になき盛況を呈し居ることは既報せし所なるが昨日蝟島より仁川に入港せる小富士丸はグチ魚二十萬匹を積み居たる由なるが仁川に揚陸し直に當地及龍山方面に轉送したりと尚仁川水產會社にて千葉丸及海利丸の二隻を該方面に派遣したる由なれば明日か或は明后日頃にはグチ魚及其他の入荷を見るならんと

●戰死技手の葬儀 濟州に於て暴徒と戰ひ戰死したる統監府水產技手の遺骸は火葬に附し一昨日同地に於て葬儀を行ひたるに官民の會葬者多數にて頗る同情を表せられたる趣なりと云ふ

開城まで（六） 梅まど

觀德亭に上ると開城の全市街が一眸の下に見ゆるといふから蜿蜒透迤たる韓人家屋の間を潜つて夫れから畑やら谷川やら分らぬ所を登つて小山の頂上に達した

小山の絶頂に一棟の堂があるこれが觀德亭といふので例のヨボどもが十人ばかり集まつて弓の射的をやつて居る

何といふ弓か知らぬが長さは三尺足らずで揚弓とでも言ふのであらう牛の筋で作つたものださうで「つ」の字形に引き絞つても折れぬ而して六十間ばかり向ふに的を立てゝ夫れを射るのであるが物に不器用なヨボも弓は仲々上手だ

チョンガーを通辯とし其のヨボに就て彼の高きものは何であるか此の長いものは何であるかと聞き忽に開城通となつた

今聞き得た所と見た所を綜合して語らう

開城は京城より北方に方つて相距ること十六里棲む所の韓人が約四萬で日人は昨春は一千と稱せられたが目下一千五百人位居るであらう

地形は北に松嶽山といふ奇岩怪石の峙つた山水の畵にあるやうな高い山を負ひ其の麓に城壁が廻らしてあつて城壁內は民家が不規律に充滿し南大門外に溢れて居る警察署や民團役所はこの門外にある

此の松嶽山に因んで開城の一名を松都ともいふ

山麓に高麗王城の遺跡滿月臺がある今は雜草荘々と生茂つて僅かに礎が昔を偲ぶ種に殘れるのみである

觀德亭の向ふに君子亭といふのが見ゆるこれもヨボの遊び場となつて居るらしい

南大門外に善竹橋といふがある高麗朝の末造に方つて鄭圃隱といふ頑固親爺が高麗朝の運命を双肩に擔ふて現李朝の祖先の爲めに殺されたといふ古跡である

高麗燒といつて此の頃持囃される古陶器は何所で掘るかと聞くと西北一里の處に高麗の七陵といつて第一世の王陵を初め數代の陵墓がある此の邊の古墳墓を發掘すると古銅器や古陶器が出るといふことである

王陵の附近に扶山洞、彩霞洞などいつて瀑布がある夏は韓人の婦女子どもが一年一度の沐浴を此の瀧でするので仲々賑ふそうである

觀德亭を下つて市中を馳け廻つて腹がすき燒でも食ひたくなつたから只ある旅亭に飛び込むと仲居が出て座敷に案內して御注文なら西洋料理も出來る此の開城に藝妓も九名酌婦も二十五名居るから御所望だけ呼んで來やうといふ

藝妓などはいらぬから飯の代になつて酒の肴になるやうなものを出せと命じた處が二時間たつても音沙汰がない腹はへこ〳〵して手を叩く勇氣もなくなつた

チョンガー朝鮮のスリチビは客の來るのを待つて居るから何時でも用意が出來て居ますが日本の料理屋は何でこのやうにぬるくするですか日本人は呑氣です—

成程ど、此の點から言ふと日本人は朝鮮人よりも、さらに一歩進んだ呑氣かも知れぬ漸くにして酒肴が運ばれた見れば和漢洋取交ぜとも評すべきもので京城のれ客といふから大に氣取たものらしいが常食の晩菜にも劣つたものばかりで箸が皿の上をうろついて居る

●京城樂友會 同會は來る五月三日午後正七時より旭町歌舞伎座に於て第五回音樂會を開催し入場料を徴せず一般招待券を配布し入場せしむる由其の演奏順序は左の如し因に云ふ同會會員は目下約百六十名にして尚續々申込者ありと

第一部

進行曲（戰場の夢） 陸軍軍樂隊
淨瑠璃（太閤記十段目） 竹本美聲 糸 豐澤糸玉
寳生流謠曲獨吟（三井寺鐘の段） 伊藤松月
管絃樂（箏曲六段） ヴアイヲリン 大場樂手 ヴアイヲリン 淺井樂手 クラリチツト 管原樂手 サキソホンアルト 早藤樂手 サキソホンテノール 伊藤樂手 グランドケース 石井樂手 指揮者 野間樂手
八雲琴合奏（萬歳の曲） 三宅民子 加藤清子 澤田雪子 小田初子 日下部國子
尺八（松前追分節） 琴（春の曲） 觀世流仕舞（芦苅） 俗歌集（河畔の夕涼） 二曲合奏（茄子の曲） 琴 尺八 オルガン獨唱（離れ小島） ハーモニカ（海軍分列式）
坂田東水 中管道雄 多治比松琴 陸軍軍樂隊 伊藤靜代 稻本政音 松島春風 淺井秋水

休憩

第二部

長唄（勸進帳） 胡弓 琴 尺八 三曲合奏（千鳥の曲） 觀世流仕舞（八島） 獨唱（サーム九十三篇の一節） 尺八獨奏（曲目未定） 淨瑠璃（八陣八段目） 糸 管絃樂 清樂西皮調 ヴアイヲリン ヴアイヲリン クラリチツト サキソホンアルト サキソホンテノール グランドケース 指揮者 八雲琴 同 同 同 同 二曲合奏（相生の曲） 尺八 尺八（山谷菅垣） 進行曲（騎兵分列式） 餘興劍舞其他數番あり
陸軍軍樂隊 多治比松琴 中管道雄 稻本政音 中川五星 山脇參甫 中管道雄 竹本喜樂 豐澤糸玉 大場樂手 淺井樂手 管原樂手 早藤樂手 伊藤樂手 石井樂手 野間樂手 加藤清子 澤田雪子 小田初子 日下部國子 多治比松琴 稻本政音 坂田東水 陸軍軍樂隊

●大阪汎愛扶植會の慈善演藝會 兼てより準備中の大阪汎愛扶植會の慈善會は官民有志の贊助により愈々來る五月七日八日兩

夜午後六時より旭町歌舞伎座に於て開催のよし、尙餘興として事業幻燈、活動寫眞、東京講談、落語、琴、尺八、ヴアイオリンの演奏ありと云ふ

●產婦洪恩に泣く 二十四日大韓醫院鈴木醫師が德壽宮に參內し太皇帝の拜診を終て後疾病に就て種々物語り申上げし內に中署寺洞に住む徐春西なるものあり家素より貧しければ擔軍を業とし細々ながらも烟を立て其日を暮り居りしも其妻は豫てより姙娠の身となり居りしことゝて去る二十一日正午頃俄かに產の氣付き女兒を產み落せしも後產なく大に苦悶して殆んど瀕死の境にあるも貧しき身の醫藥を求むるに由なく唯だ死を待つより外なく途方に暮れ居りしに偶然大韓醫院の施療あるを聞きたりとて夫の徐が馳り來りて施療を乞ひたるを以て直ちに同家に出張して應急の手當を施したる上遂に無事后產をなさしめ先づ生命だけは取止めたるも快復するまでは充分の療養を加へざるべからざるも貧しき暮しなれば充分に治療も出來ず實に憫然の次第なりと物語られしに太皇帝にも之を聞召されソワ誠に憐れの者なりと即日武監金永澤を同人宅に差遣はされ金二十圓と鹿茸十匁を賜はりたれば同人も夢かと驚き其洪恩の深きに感泣せりとさもありなん

●今では立派な奥様 しだらない女も多いが是ればまた天下無類飛切とでもいふほどの風船玉で其の名を尻野お輕といひ生れ故郷は足曳の山口縣とやらでまだ肩揚の取れぬ十三四の頃より近所の土臭き小童や印度人かと見まがふばかりの漁夫の小倅を手玉にとつて浮名を響灘に流し兎に角れ輕さんといへば五里と三里の界隈に若者連の噂に上つたことゝて嫁に貰はう養子に行かうと當世式で直接談判に來るもあればぐつと古風を遵つて仲人を入れて申込むもあり一家は其の應接に鞅掌せられて家業を採る暇もないといふ程であるが提灯に釣鐘は不緣の基と兩親が承知せず平等以下の處へは本人が納得せず親子反目することがあつて是れだから器量のよい娘は拵ねのだと隣の親爺に自慢の種を與へ小野小町も美人ならざりせば生涯獨身で暮らしはせざるものをとれ輕は欷歔し兩親も人並勝れし娘を持ちて却つて心配をすることよと夫婦寐覺めの物語を襖越しに聞いたるれ輕は俄かに大悟徹底して翌朝起きるや否や母なる人の前に出で是までは色々我儘も言つてれ勸めの緣談も蹴はつたが今日から思ひかへ何所へも行けと仰せの處へ嫁入りすると申し出でたる矢先へ財產こそなけれ村で多少は顏の利ける甚さいふが嫁に貰ひたいとの交渉があつてれ輕も否とは言はず爰に黃道吉日を撰び目出度華燭の典を擧げたるがれ輕が斯くも心機一轉したるは此のまゝ悶々して內に居つては一生涯窮足を伸ばすことが出來ぬ一度他家に嫁けば何とか分別も出やうといふので其の某はれ輕の爲めには甚だ不滿足なれども姑らくこれを忍んで父母の命に從ひしとは後日に思ひ知られける

●乱暴な女 韓國三界に來るほどのものゝ並一通りでないのであるが長谷川町の飲食店た多福亭の女將石井キヌ（二十八）といへるは去る二十八日の午前十一時頃小公洞赤門前の飯屋李方に滯在する李聖寶（四十）といへるが合力を求め拒絶すれども强い蒼蠅く附き纏ひしとかにて手に持てる水柄杓を以て思ひさま頭部を打っ据ね負傷せしめたるより聖寶は淋漓として流るゝ血汐を押し拭ひ哀哭々々と泣き居る所へ巡査が通りかゝり双方を警察へ連れ行き取調の末其の罪は聖寶にありとするも負傷せしめたるによりキヌより膏藥代五十錢を辨償せしめて事濟みとなれり

●騎兵の變死 第十三師團騎兵第十七中隊第一中隊二等卒西尾重治咸興府南門知樂町第二給養班韓人家屋內に於て三十年式騎兵銃を以て自殺せる顚末を聞に重治は冬襦袢の上に略衣袴を着し宿舍內に於て他の兵卒と共に在宿し獨り片隅に寄り馬具小綱を扱ひ居る中突然一發の銃聲ありたるを以て他の二兵卒は其音に驚見たるに重治は既に三十年式銃と共に仰向けに倒れ居りたりと致命は咽喉部の上方より後頭部に貫通したる爲めなりと云ふ今其原因と認らる要點は分明せざるも重治は新兵にして四十一年三月廿九日內地より補充として現所屬中隊に編入せられ爾來常に沈默にして同輩と雖も交際は勿論言語も碌々交へたることなく常に宿舍の一隅に身を寄せ終始鬱悶狀態にありたりと之に因つて推定するに他分精神に異狀を呈し自殺を遂げたるものなりと云ふ

●荷車の祟り 本町五丁目の大上商店の雇人前村三之助（三十）は去る二十四日曙町に於て街路に荷車を橫たへ交通の妨害を爲したる廉を以て昨日科料三十錢に處せらる

予の見たる商店 角帶小僧

旭屋旅館

仁川第一の旅館旭屋は珍物佐々木源吾の經營に係る所である、源吾爺は元北海道旭川の產、性磊々として剛直、權威に阿らず、金力に屈せず、ヨシ大臣參議の前に出ても平氣の平左で有のまゝの北道辯を振廻はして相手を驚かすといふ珍物である、こういふ氣性であるから旅人中金に苦つて宿料を支拂ふ事が出來ぬものがあれば宿料を免除したまけに自腹を切つて旅費を與へて日本に歸すといふ俠客式氣骨に富んで居る、そしてこういふ者を日本に返す時には必ず說諭をする、其言に曰く「一た前見た樣な若い者は朝鮮に出て來て苦勞するのが未だ早いまゝモウ五六年內地で汗を流してから又出掛けてれ出で、其時にはれれは飯を食はして世話をしてやる」といふのだ、こんな爺だから客を非常に大事にする、然もた客が無理をいふと、それは貴方が無理といふもんだん、ぺーこキビ〳〵遣りつける、デ爺の氣性を知らぬものは一寸立腹するが二三日泊つて居る中には大の仲ヨシになるのが通例だ、家は濟町一丁目角三階建の仁川沖を一望に收むるといふ眺望佳絕の地位を占めて居る、番頭の親切なのと女中の不親切なのは有名、遣り繰りは左程困らぬ方だが未だ溜つた迄には行かぬらしい（此次は何處）

●訂正 昨日の三面欄に「惡い一筋」と題したる記事の中藤富國太郎なる者が韓人劉永祐をして南山の小松の枝を折り取らしめたりとありしは事實相違にて右藤富氏は却つて小松林の持ち主にて同人よりアベコベに韓人を訴へ出でたるものなりと爰に誤謬の點を訂正し置く

大景品付大賣出し

弊店儀今回トルコ莨商會と代理店の契約仕候に依り其紀念として左記破格の直段にて來る十五日より大景品付大賣出擧行仕候間續々御用命御引立願上候

一 D インペリアル 百本に付九拾錢

一 G 茶褐色スポート 百本に付九拾五錢

右百本入一箱毎ニ景品券壹葉トス

景品目錄

一 壹等 商品券 百圓
一 貳等 同 參拾圓
一 參等 同 貳拾圓
一 四等 同 拾圓
一 自五等至七等 同、五圓

一 自八等至拾等 商品券 參圓
一 自拾壹等至參拾等 同 貳圓
一 自參拾壹等至八拾一等 同 壹圓
一 自八拾一等至百等 同 五拾錢

其他空籤ナシ

右は公平なる抽籤法を以て即時相渡可申上候也
當店の特色 景品は物品にあらず商品券に付何時にても隨意に御好の品にて差上可申候

京城本町一丁目

代理店 岡野商店

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金 三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行 京城支店 (電話五八番)

爲替取組先

畿內	二十七ヶ所
東山道	十三ヶ所
南海道	七十五ヶ所
山陽道	二十三ヶ所
北海道	五ヶ所
臺灣	二ヶ所
東海道	二十八ヶ所
北陸道	十一ヶ所
山陰道	十三ヶ所
西海道	三十三ヶ所
韓國	十ヶ所
清國	九ヶ所

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店

京城南大門通(電話四二〇)

本店 長崎市築町
支店出張所
韓國 京城、仁川、釜山、元山、群山、馬山、木浦、羅州、鎭南浦
日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何圓にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

一 民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務
一 貸金賣掛金等に關する債權取立事務
一 鑛山及土地の測量製圖並に出願手續
一 會社組合銀行等の顧問

明治法律學校出身

京城本町一丁目

增本好三郞事務所 (電話取次六二四番)

謹告

エジプト莨及マニラ葉卷其他煙草類各種
西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶

謹告在韓清國人

大連 安徽 頭彩 金壹萬圓 第三十一次(陰曆四月十日 清五月十日)開彩
湖北 頭彩 金五萬圓 第七十六次(陰曆四月二十日 清五月廿日)開彩
江南 頭彩 金壹萬圓 第十七次(陰曆四月廿七日 清曆三月廿七日)開彩

定價
湖北彩票全紙金七圓五拾錢
江南彩票全紙金七圓
大連彩票全紙金壹圓參拾錢
安徽彩票全紙金壹圓參拾錢

小切八拾錢
小切七拾五錢

西洋雜貨 商源源號

京城水標橋二宮街

營業科目

活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
諸帳簿
製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ尙ホ此ノ際ニ新築落成仕候間一層營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

綿類一切販賣
弓打綿製造所
並ニ古綿打直し

各位益御清榮の由奉賀候陳者弊店儀各位の御引立に預り日に增し繁榮に赴き候段難有奉深謝候就ては今回職人數名雇ひ入れ盛大に製造罷在候間續々御注文被下度奉願候敬白

京城永樂町二丁目一番戶

深堀商店

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭
三池粉炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應じ可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚
本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦
芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社

京城出張所 (電話二十六番)

仁川出張所 (電話六十三番)

齒科全般の治療

米國最新式義齒

京城本町六丁目(𥝱そば橫町)

米國齒科醫學博士 女醫 中村安子

韓國京城

株式會社 第一銀行

電話番號(營業用 當直用 營業用) 一一番 三三一番 國庫生用 度用 分析所用 六二番 六二二番

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店、出張所
大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店、出張所
仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、咸興、城津、馬山、鏡城
清國安東縣

右の外內外各地重要なる場所には爲替取引先あり
營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

花柳病專門

十字病院

龍山老松町

院長 帝國醫科大學選科得業 望月憲磨

今般更に眼科部を設け最新式機械を設置し眼科全般の治療をなし又遺憾なきを期す若し夫れ技術巧拙に至つては乞ふ既往の治績に徵せられんことを

訴訟、鑑定、契約起案、諸願屆、登記書類代書、土地家屋賣買、金錢貸借、電話賣買等の周旋

京城本町一丁目警察署前

明法學士 小川勝平事務所 電話四十一番

今般左記の處に事務所を設け一般訴訟事件の依賴に應ず

前東洋大學校師 日本法律學士 辯護士 木尾虎之助

事務所 京城元博覽會表門通 亭洞六十四統二戶

染物並洗張

迅速叮嚀を旨とし染色艶麗にして確實なるは本工場の特有なり

龍山元町四丁目(元今村跡)

桑澤工場

提灯製造 並張替及瓦斯燈張替へ

弊店は業務確實にして仕事叮嚀なり

京城本町理事廳前裏通

藤井提灯廛

フツマ新調 並ニ張替

表具師 京城旭町三丁目三ヶ月旅館前

高瀨光榮堂

▲懇切なる通關▼

懇切を本旨として通關を取扱ひ迅速を特色として運送に從事致候間御用命奉願上候

京城南大門外吉野町

▲迅速なる運送▼

㊂ 運送店

松丸太

松材 松薪 材木一切並ニ柳材類

弊店所有の松山より伐り出しに付大勉强可仕候間多少に不拘御用命の程奉願上候

麻浦孔德里大院君墓地

伐材出張事務所

石磨 拔擦 精米

米國最新式磨擦機械ヲ用ヒ手撰
石拔ニ最モ注意ス
迅速確實
價格低廉
特別廉價ヲ以テ多少ニ係ハラズ
迅速賃搗キノ依賴ニ應ズ

京城西部東幕 (麻浦度支部煉化工場右手)

順昌精米所 所主 林炳壽

西洋御料理宴會

日本人俱樂部

京城南山町三丁目電話(一二三番)

原金旅館

本店 仁川理事廳通(電話三二一番)

支店 京城南山町(電話一〇七番)

●精白米卸小賣●

●石拔● 一升ニ付 十七錢

白米 十六錢五厘 十六錢

一斗以上市內には出米迅速
俵賣は特別御相談仕り候

京城旭町一丁目

各位樣 前田精米所

月 日

●大阪豆腐●

大阪滋養大豆ソツプ

右は一合三錢にて朝夕配達仕候間御入用の御方ははがきにて御一報被下度候

豆腐木のめでんがく

右は一人前十三錢にて仕出し可仕候

●木のめ田樂●

京城旭町壹丁目

中瀨商店

日本澤庵
味噌醬油製造
乾物荒物鑵詰
銘茶食料雜貨

漬物問屋

京城本町五丁目

大上商店 (電話二五一番)

●至急廣告●

パナマ帽 臺灣製帽合資會社製品
淡水帽

右今般韓國一手販賣特約候に付御便宜上御注文に相應じ取次卸賣可仕候間多少に不拘御用命被下度候

猶製品輸入の都合有之候に付き季節柄此際至急御申越し願上候

明治四十一年四月

製造元 臺灣製帽合資會社

韓國一手販賣所

京城三好町一丁目十三番戶(歌舞伎座隣)

電氣機械並に西洋家具製造販賣所

藤原商會 電話八百五十八番

日本郵船株式會社 仁川瀛船出帆廣告 電話十番

仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番

貨物及船客取扱店

京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸	五月十日	後三時出
●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號	五月一日	後三時出
釧路丸	月 日	後三時出
●大連、大沽、牛莊行 高砂丸	五月十四日	後一時出
山東丸	五月廿六日	前五時出
●大連、大沽、牛莊行 酒田丸	五月廿八日	後一時出
●鎭南浦行 第一オハヨー號		後三時出
●釜山出帆、元山淸津、浦鹽行 弘前丸	五月廿 日	

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事